

原稿を作成する際の表記法・用語法について

- 原稿作成時の留意点 -

2004年から2006年にかけて、ある政府機関の委員会に加わり、その機関が刊行する報告書を査読する経験をした。その経験を踏まえ、2005年3月、原稿作成時の留意点として原稿書く方々に渡すマニュアルを作成した。その後、改訂を加えたのが、以下に示す文書である。皆さんがレポートを書いたり、論文を書いたりするときにも役立つだろうと思い、ここに掲載することとした。ただし、オリジナルなマニュアルから、若干、文章を変えたところがある。また、マニュアルが想定しているのは、一般の人が読む冊子であり、研究者が読む報告書や論文を想定しているのではないので、私自身、異なった用語法を用いている言葉もあることに、注意されたい

(2007年1月16日)

1. 趣旨

本機関は、国民を対象として、種々の報告書を発行しています。一冊の本として読みやすくするためには、表現や用語ができるだけ全体をつうじて統一されていることが不可欠です。しかし、これらの原稿作成には、機関内の多くの部署の担当者が参加していますので、単なる原稿の寄せ集めでは、担当者ごとにばらばらな表記や用語が使われてしまいます。すなわち、そのままでは上記の目的は達成されません。そこで、表現や用語について、機関内で統一したガイドラインがあれば、編集を担当する方はもちろん、査読する委員にとっても大変有益です。表現や用語を修正する負担の軽減が図られ、内容の吟味のほうに、もっと時間を費やすことができるからです。

なお、このガイドラインは、あくまでも本機関が国民向けに発行する冊子における表現や用語についてのものであり、個々人が、論文や解説記事を書く際には、何ら縛るものでないことはいうまでもありません。この点は、ご理解ください。

2. 一般的なこと

(1) 文章はできるだけ短く、簡潔にすること

ときには、一つの文で一つのパラグラフになっている例が見受けられます。短く切ることで、短くいい切ることが、わかりやすくする一歩ではないでしょうか。

(2) カンマを多用し、読みやすくすること

上の項目とほとんど同じですが、カンマを多めに入れることも、読みやすくする一つのやり方です。

(3) 原則として、接続詞は「ひらかな」書きとし、後ろにはカンマを入れること

「従って」は「したがって」、「又」は「また」、「更に」は「さらに」、「即ち」は「すなわち」、「但し」は「ただし」などと、接続詞は「ひらかな」書きを原則としましょう。

また、これらの後ろにはカンマを入れることも原則としましょう。

ただし、「一方」や「例えば」は漢字がよろしいのではないのでしょうか。

(4) 主語と述語の対応関係に注意すること

1) 「図…は、…を示す」。

2) 「図…からは、…であることがわかる」。

特に長い文章になった場合、2)で示した主語と述語の関係が守られていないことが多く見受けられます。注意したいものです。

(5) 「みられる」や「わかる」の多用を極力避けること

報告書では、図を示して、その図から読み取れることを記述する場合があります。このとき、「みられる」や「わかる」が、極端な場合、すべての文章の述語になっている場合があります。表現を工夫して、これらの言葉を多用しないようにして、読みやすくすべきでしょう。

(6) 参考(引用)文献のスタイルについて

参考(引用)文献の書き方にも不統一が目立ちます。機関内で独自のスタイルがあるのでしたらそれを守ってください。

これまで出版されたものをみますと、引用形態は以下のようなので、以下のスタイルで参考文献を記してください。

<例：英文論文の場合>

****, *. and *. ****, 2003: Long-term variability of North Pacific subtropical mode water in response to spin-up of the subtropical gyre. J. Oceanogr., 59, 279-290.

(諸注意)

1. 最初の著者は、「苗字」、「名前」の頭文字の順序とし、第2著者以降は、「名前」の頭文字、「苗字」の順序とする。なお、「名前」と「苗字」の間には、半角のスペースを入れる。
2. 著者名の中の「and」の前には「,」は入れない。
3. 発表年は著者名の後ろに「,」を入れた後、括弧にくくらないで、数字を入れる。
4. 論文題名は最初の字が大文字、以下、固有名詞以外は小文字とする。(なお、上記の例では、「subtropical mode water」も小文字とした。これは、この用語が最近固有名詞でなくなりつつあることを考慮したためである。)
5. 論文題名の最後には「.」を付ける。「,」でないことに注意。
6. 雑誌名は略字とする。雑誌によって略し方はさまざまであるが、標準的な略字とする。
7. 雑誌によって、雑誌名はイタリック、号数はゴシックが用いられることもあるが、この冊子では、全て「立体」でよい。
8. 引用文献が2行以上にまたがる場合、2行目以降は「半角で4文字下げる」。

<例：和文の場合>

****, ****, 2003: 日本近海における表層水温の長期変動 海面水位と長期変動の関係 - . ****, 72(特別号), S17-S26.

(諸注意)

1. 「苗字」と「名前」の間にはスペースを入れない。
2. 複数の著者がいる論文では、著者の間に「,」(カンマ)を入れる。
3. 「、」と「。」は使わず、「,」と「.」を使う。
4. その他は、英文論文に準ずる。

3. 用語の具体例(「ひらかな」か「漢字」か)

以下、混合して使用されている言葉のいくつかの例を挙げます。そして、こうしようと提案しますが、以下の提案には、私、花輪個人の「好み」が強くはっています。機関内で、用語の統一した考えがあれば、そちらの方を採用してください。大事なことは、冊子のなかで、用語法が統一されていることです。

***** (あ行) *****

「あげる」と「挙げる」

:「挙げる」と漢字を使用。(例)以下に、例を挙げる。

「あたり」と「当たり」、「当り」など

:「あたり」とひらがなを使用。(例)1年あたり10個の台風が接近する。

「あつかう」と「扱う」

:「扱う」と漢字を使用。(例)ここで、…は…と取り扱った。

「あびる」と「浴びる」

:「浴びる」と漢字を使用。(例)紫外線を浴びると、…。

「あらたな」と「新たな」

:「新たな」と漢字を使用。(例)新たな設備を導入して、…。

「あらわす」と「表す」

(「あらわす」と使用しているようですので、このバージョンでは変更します。)

:「あらわす」と、ひらがなを使用。(例)ここで、…は…をあらわしている。

「あらわれる」と「現れる」

:「現れる」と漢字を使用。(例)…には、…が現れた。

「あわせて」と「合わせて」、「併せて」

:「あわせて」と、ひらがなを使用。(例)…と…とをあわせて、…とした。ただし、「組み合わせる」は漢字とする。

「いう」と「言う」、「いえる」と「言える」など

:「いう」や「いえる」と、ひらがなを使用。(例)これを、…という。

「いくつか」、「いくらか」と「幾つか」、「幾らか」

:「いくつか」、「いくらか」と、ひらがなを使用。(例)…となるいくつかの要因は…。

「いたる」と「至る」

:「至る」と漢字を使用。(例)至るところに…。…に至るまで…。

「いっそう」と「一層」

:「いっそう」と、ひらがなを使用。(例)よりいっそうの観測が必要である。

「いったん」と「一旦」

:「いったん」と、ひらがなを使用。(例)いったん低下したが、…。

「いっほう」と「一方」

:「一方」と漢字を使用。(例)一方、…は…。

「いれる」と「入れる」

:「入れる」と漢字を使用。(例)…には、…の数値を入れた。

(注)「入」を「はいる」と読ませる場合はひらがなを使用する。「はいる」の項、参照。

「うえで」と「上で」

:「うえで」と、ひらがなを使用。(例)…を考慮したうえで、…。

「うける」と「受ける」

:「受ける」と漢字を使用。(例)…を受け、…。

「える」と「得る」

:「得る」と漢字を使用。(例)…という結果を得た。

「おおむね」と「概ね」

:「概ね」と漢字を使用。(例)…は概ね解消した。

- 「おきる」、「おこる」と「起きる」、「起こる」
 :「起きる」、「起こる」と漢字を使用。(花輪は、「起こる」がよりよいと考えている。(例)
 大地震が**起こった**。
- 「おもな」、「おもに」と「主な」、「主に」
 :「主な」と漢字を使用。(例) **主な**原因は…である。なお、「主要な原因は」とは使わ
 ず、「主要原因は」とするか、または「主な原因は」とする。
- 「および」と「及び」(「and」の意味)
 :「および」と、ひらがなを使用。(例) …**および**…。
- 「およぼす」と「及ぼす」(「影響を与える」の意味)
 :「及ぼす」と漢字を使用。(例) 大きな影響を**及ぼした**。

***** (か行) *****

- 「かかわる」と「関わる」、「係わる」
 :「かかわる」と、ひらがなを使用。(例) …に**かかわる**問題は、…。
- 「かた」と「方」
 :「方」と漢字を使用。(例) 書き**方**は、…。やり**方**は以下のとおり。
- 「きわめて」と「極めて」
 :「きわめて」と、ひらがなを使用。(例) …は**きわめて**有効な方法である。
- 「こうじる」、「こうずる」と「講じる」と「講ずる」
 :「講じる」、「講ずる」と漢字を使用。(花輪の好みは、「**講ずる**」)(例) …という施策
 を**講ずる**こととした。
- 「こえる」と「越える」、「超える」
 :「超える」と漢字を使用。…の気温は、…を**超えた**。
 :ただし、場所に関しては「**越える**」の漢字を使用。(例) 峠を**越えた**。
- 「ごと」と「毎」
 :「ごと」と、ひらがなを使用。(例) …を年**ごと**にみれば、…。
- 「こととする」、「こととした」と「事とする」、「事とした」
 :「こととする」と、ひらがなを使用。(例) …を**することとした**。

***** (さ行) *****

- 「さい」と「際」
 :「際」と漢字を使用。(例) …を使用する**際**には、…。
- 「さまざま」と「様々」
 :「さまざま」と、ひらがなを使用。(例) **さまざま**な測器を用いて、…。
- 「さらなる」と「更なる」、「さらに」と「更に」
 :「さらなる」や「**さらに**」と、ひらがなを使用。(例) **さらなる**観測データの蓄積が必
 要である。
- 「したがって」と「従って」
 :「したがって」と、ひらがなを使用。(例) **したがって**、…は…とみなす。
- 「しだいに」と「次第に」
 :「しだいに」と、ひらがなを使用。(例) その後、**しだいに**減少する傾向になった。
- 「しめる」と「占める」
 :「占める」と漢字を使用。(例) …の大半を**占める**…は、
- 「しょうじる」、「しょうずる」と「生じる」、「生ずる」
 :「生じる」、「生ずる」と漢字を使用。(花輪の好みは、「**生ずる**」)(例) …から…が**生
 ずる**ことがある。
- 「すなわち」と「即ち」
 :「すなわち」と、ひらがなを使用。(例) **すなわち**、この例では…。

「すべて」と「全て」
:「全て」と漢字を使用。(例)全ての地点で…。

「そのほか」と「その他」
:「そのほか」と、ひらがなを使用。(注)ただし、「その夕」と読ませるときには、「その他」と漢字を使用。(例)そのほか、…は…。その他多くの事例では、

***** (た行) *****

「たつ」と「経つ」
:「経つ」と漢字を使用。(例)時間が経つと、…。

「たとえば」と「例えば」
:「例えば」と漢字を使用。(例)例えば、…は…とみなされる。

「つうじて」と「通じて」
:「つうじて」と、ひらがなを使用。(例)…は…をつうじて…に影響を与える。

「つぐ」と「次ぐ」
:「次ぐ」と漢字を使用。(例)…年は…年に次ぐ高温であった。

「つらなる」と「連なる」
:「連なる」と漢字を使用。(例)…と…とが連なって起こった。

「できる」と「出来る」
:「できる」と、ひらがなを使用。(例)…ごろ、…ができるようになった。

「でる」と「出る」
:「でる」と、ひらがなを使用。(例)

「とおり」と「通り」
:「とおり」と、ひらがなを使用。(例)…は、以下のとおり。

「とき」と「時」
:「とき」と、ひらがなを使用。(例)このとき、…のときは、…。

「ともに」と「共に」
:「ともに」と、ひらがなを使用。(例)…するとともに、…。

「ともない」と「伴い」
:「ともない」と、ひらがなを使用。(例)…は…をともないながら、…。

「とらえる」と「捉える」
:「捉える」と漢字を使用。(例)…の観測では、…が捉えられた。

「とりあげる」と「取りあげる」、「取り上げる」
:「取り上げる」と漢字を使用。(例)本項では、…を取り上げたい。

***** (な行) *****

「なかにも」、「なかで」、「なかでも」と「中にも」、「中で」、「中でも」
:「なかにも」と、ひらがなを使用。(例)…例の事例のなかにも…があった。

「なかば」と「半ば」
:「半ば」と漢字を使用。(例)1980年代半ばに、…。

「のぞき」と「除き」
:「除き」と漢字を使用。(例)…例中…例を除き、…。

「のち」と「後」
:「のち」と、ひらがなを使用。(例)…ののち、…

***** (は行) *****

「はいる」と「入る」
:「はいる」と、ひらがなを使用。(例)梅雨にはいると、…。(注)「入(い)れる」のときは漢字を使用。

「はじめとする」と「初めとする」

- ：「はじめとする」と、ひらがなを使用。(例)…をはじめとし, …。
- 「はたす」と「果たす」
 - ：「果たす」と漢字を使用。(例)…という役割を果たしている。
- 「ひとつ」と「一つ」,「1つ」
 - ：「一つ」と漢字を使用。「二つ」,「三つ」など同様。(例)これは, …という例の一つである。(注)「つ」以外の「個」などの漢字がつく場合は, 算用数字・1個, 2個など。
- 「ふたたび」と「再び」
 - ：「ふたたび」と、ひらがなを使用。(例)…ごろ, ふたたび…が盛り返し, …。
- 「ふるまい」,「ふるまう」と「振舞い」,「振る舞い」,「振舞う」,「振る舞う」
 - ：「振舞い」や「振舞う」と漢字を使用。(例)…の振舞いは, …。
- 「ほうから」と「方から」
 - ：「ほうから」と、ひらがなを使用。(例)北のほうからみると, …。(注)「方」を「ほう」と読ませるときはひらかな,「かた」と読ませるときには「方」と漢字を使用する。

***** (ま行) *****

- 「まれ」と「稀」, または「希」
 - ：「まれ」と、ひらがなを使用。(例)…のような例は, 極めてまれである。
- 「まさる」と「勝る」
 - ：「勝る」と漢字を使用。(例)…のほうが勝っている。
- 「まわる」と「回る」
 - ：「まわる」と、ひらがなを使用。(例)…をまわって, …。
- 「みる」と「見る」,「みられる」と「見られる」
 - ：「みる」と、ひらがなを使用。(例)…の図では, …存在がみられる。ただし, 漢字が続くときは漢字を使用。(例)「見出す」や「見受ける」など。
- 「めぐる」と「巡る」
 - ：「巡る」と漢字を使用。(例)…を巡っては, 議論が分かれている。
- 「もちいる」と「用いる」
 - ：「用いる」と漢字を使用。(例)ここで用いた資料は…。
- 「もつ」と「持つ」
 - ：「もつ」と、ひらがなを使用。(例)…は, …の効果をもっている。
- 「もとに」と「基に」,「元に」,「下に」(後ろの漢字は意味がそれぞれ異なるが…)
 - ：「もとに」と、ひらがなを使用。(例)…をもとにして, …を作成した。
- 「もつづく」と「基づく」
 - ：「基づく」と漢字を使用。(例)…に基づく結果は, …。

***** (や行) *****

- 「よく」と「良く」
 - ：「よく」と、ひらがなを使用。(例)…をよりよく抽出するためには, …。
- 「よぶ」と「呼ぶ」
 - ：「呼ぶ」と漢字を使用。(例)これを, …と呼ぶ。

***** (わ行) *****

- 「わがくに」と「わが国」,「我が国」,「我国」
 - ：「我が国」とする。(例)我が国では, …
- 「わかる」と「分かる」(「認識する」,「理解する」の意味)
 - ：「わかる」と、ひらがなを使用。(例)図…から, …であることがわかる。
- 「わける」と「分ける」(「分割する」の意味)
 - ：「分ける」と漢字を使用。(例)…は, …と…に分けることができる。

「わけではない」と「訳ではない」

:「わけではない」と、ひらがなを使用。(例)この例から…といえるわけではない。

「わずか」と「僅か」

:「わずか」と、ひらがなを使用。(例)…はわずかながら増加している。

「わたる」と「亘る」(なお、長年に渡るの「渡る」は誤用。)

:「わたる」と、ひらがなを使用。(例)長年にわたる観測から…。